



「加古川に点在する城跡」

加古川北高校には以前郷土研究部がありました。その研究の一つとして、志方町に関わる「中道寺城の研究」にまつわるものがあり、兵庫県中学・高校地域論文コンクールで最優秀賞に輝いた実績があります。

城というと、世界遺産・国宝の姫路城がすぐ頭に浮かぶと思いますが、加古川にも多数の城にまつわるものが残されています。

また、日本の城というと桃山時代の城郭建築を想像しますが、古代の砦、中世の構（溝居）、山城、平山城、戦国時代の平城と変容していきます。

昨年度のNHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」は、前半部分で播磨地域を舞台としたドラマが展開されました。有名な場面として、加古川城での軍評定があります。現在の寺家町にある称名寺がそこにあたります。1578(天正6)

年羽柴筑前守秀吉が毛利氏平定のため、加古川の糟（加須屋）氏の館を本陣とする軍評定の後、織田氏から離反する決定をします。三木城主の別所長治の叔父執権賀相・家臣三宅治忠が出席しています。東播磨の諸城は、加古川城、阿閉城（播磨町）を除き、一斉に織田信長に反旗を翻します。

織田方は、野口城の戦い(1578年4月)、神吉合戦(1578年6月)、志方城落城(1578年8月)と着々と三木城の支城的城を攻略していきます。志方城は黒田官兵衛の

正妻光の実家櫛橋氏の居城です。そして、

“三木の干殺し”で名高い三木合戦が2年間にわたって展開されます。その間に羽柴秀吉の軍師竹中半兵衛の死（三木市に墓石あり）などがありますが、城主別所長治をはじめ、別所氏一族の命と引き換えに城兵の助命を請い、その通りとなります。

歴史の表舞台に加古川が登場する数少ない一場面です。加古川に痕跡を残す城ストーリーから歴史に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

